

都市再生整備計画 (第7回変更)

松山市中心地区

愛媛県 松山市

平成21年 3月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	愛媛県	市町村名	まつやまし 松山市	地区名	まつやましちゅうしんちく 松山市中心地区	面積	450 ha
計画期間	平成16年度～平成20年度	交付期間	平成16年度～平成20年度				

目標

大目標：『坂の上の雲』フィールドミュージアムの具現化により、都市観光の振興を図り、『市民生活の質の向上』と『地域経済・社会の活性化』を目指す。

目標1

観光客等交流人口の増加により、都市観光の振興を図る

目標2

自動車利用から路面電車、バス等の公共交通利用促進を図り、回遊型観光を構築する

目標3

市内滞留時間を増大させるため、観光文化等の交流施設の利用促進を図る

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・本地区は本市を代表する中心商業業務地区であり、松山広域の60万人都市圏の政治・経済の中核機能を有し、又、年間50万人が拝観する重要文化財松山城や、年間100万人が入浴する重要文化財の道後温泉本館、更に、年間90万人が宿泊する道後温泉旅館街を含め、『国際観光温泉文化都市』として発展してきた重要な地域である。

・本市は平成11年から『坂の上の雲』を軸とした21世紀のまちづくり』として都市観光の振興に取組んでおり、官・学・民から成る『まちづくり推進協議会』での検討・審議がなされ、平成12年度に基本構想を作成し、平成13年度の基本計画書の中で、松山城周辺のセンターゾーンと4つのサブセンターゾーンを位置づけ、『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想を策定した。

・本市は平成14年6月1日『都市再生特別措置法』の施行を受け、全国の様々なまちづくりの中で、国のケーススタディのモデル都市として、全国の5つの自治体の1つとして本市が選ばれている。さらに、本市の『坂の上の雲』のまちづくりについて地域の智恵と個性を活かした取組みを支援すると小泉首相が施政方針演説にて言及された。本地区は、この『坂の上の雲』を軸とした21世紀のまちづくり』基本計画において、中核を成すセンターゾーン及びサブセンターゾーンの1つとして位置付けられている。

・本地区は、構造改革特別区域の『交通まちづくり特区』及び『ITビジネスモデル特区』区域と重複している。

・本地区は、地域再生計画の区域と重複し、観光の受入施設の整備、市民と観光客が交流し賑わいを創出する空間整備、市内を回遊する交通システムの構築、観光・文化・生活情報等の発信システムの構築、外国人観光客の受入環境整備を取り組む内容に位置づけている。

・本地区内では、H15年度全国都市再生モデル調査『若者が創る『坂の上の雲』のまちづくり』を実施し、地元大学生による『観て歩いて楽しい観光サイン計画』、NPOによる『朝日楼の保存活用計画』を行った。

・本地区は、中心市街地活性化基本計画の計画区域と重複し、公共交通や自転車交通の利用促進、地域特性をまちづくりに活かす、松山城周辺地区と道後温泉地区のネットワーク化等を解決すべき課題として抽出している。

・地元が組織する、道後温泉誇れるまちづくり推進協議会は、『道後グランドデザイン21』を計画策定し、地域主導のまちづくり計画を検討している。

・市民参加の仕組み作りとして、平成15年9月、『まちづくり市民塾』を開始し、公募選出した会社員や主婦など総勢66名が、行政と共同で松山市のまちづくりについて話し合い、具体的な提案づくりに励んでいる。

課題

・本市の観光拠点である、日本最古の温泉で国重要文化財に指定されている道後温泉及び築城400年の歴史を持つ松山城等の来訪者数は、道後温泉宿泊客数、松山城天守閣観覧者数、松山城へ繋ぐロープウエー・リフト利用者数共に減少している。(平成10年～平成14年で道後温泉宿泊客数約20％減、天守閣観覧者約25％減、ロープウエー・リフト利用者約20％減)

・道後温泉・松山城の観光資源は、誘客に大きな役割を果たしているものの、地域の産業資源や多くの歴史・文化資源は、地域の活性化、更には中心市街地の活性化に活かされていない。

将来ビジョン(中長期)

・第5次松山市総合計画基本計画の基本理念に『坂の上の雲』をめざして』を掲げ、『坂の上の雲』を軸とした21世紀のまちづくり』を推進し、『坂の上の雲』フィールドミュージアムを整備することで、感動と安らぎを与える物語性豊かな新しい松山の魅力を創造・発信することを位置づけている。

・中心市街地活性化基本計画において、『県都としての風格と拠点性のある街～松山城や文学の香り・賑わい・やさしさあふれる街づくり～』を将来像として実現を目指す。

・歩いて暮らせるまちづくり構想、松山まちづくり交通計画、松山市交通バ7777-基本構想において、お年寄りや障害者など、誰もが使いやすい安全なユニバーサルデザインの観点に立ったまちづくりを推進する。

・現在、国に申請している『坂の上の雲』のまち再生計画(地域再生計画)』においては、H19年度に“観光を主体とした交流人口”を“600万人を目標にした”計画としており、その中で、まちづくり交付金による整備を目指した計画としている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
観光入込み客数	万人	本市が毎年作成している『松山市観光客推定表』の松山市の観光入込み客数	交流人口の指標として観光客の入込み客数の増加を見込む	500万人	14	600万人	20
坊っちゃん列車・路面電車・バス等の公共交通機関利用数	万人	地区内を走行する蒸気機関車モデルの路面電車である、坊っちゃん列車や循環バス等、公共交通機関の1年間の利用者数(伊予鉄道年間輸送人員)	公共交通利用促進の指標として公共交通利用数の増加を見込み公共交通を利用した回遊型観光を推進する。	2590万人	14	2622万人	20
観光文化等の交流施設(道後温泉、松山城閣、子規記念博物館、二之丸庭園)の利用者数	万人	道後温泉、松山城閣、子規記念博物館、二之丸庭園の年間利用客数	観光文化等の交流施設の利用促進の指標として、観光施設利用者の増加を見込む。	180万人	14	216万人	20
本市の中心市街地における誘致企業の新規雇用数	人	本市が中心市街地に誘致した企業の新規雇用数	交流人口の指標として中心市街地における新規雇用従業員の増加を見込む。	0	14	2000人	20

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
整備方針1「賑わい空間を創出する交流拠点の確立し、観光客等交流人口を増加させる」 ・新たな魅力拠点や市民・観光客が交流し、市民活動を活性化させる活動拠点となる中核拠点を整備し、『坂の上の雲』フィールドミュージアムの核となる施設を形成し、市民主体のまちづくりの活性化につなげる。		・公園事業（基幹事業） ・高次都市施設（基幹事業／地域交流センター） ・地域文化交流拠点整備事業（提案事業） ・高次大規模オフィスビル整備促進事業（提案事業）
整備方針2「ネットワークで結ぶ回遊型観光の構築」 ・区域内に点在する小説『坂の上の雲』のゆかりの地域資源周辺の道路環境整備や、公共交通の結節点整備を行い、あわせて、案内を促進する情報板・案内板を整備し、観光客や市民に物語性のある魅力的な回遊型の観光を促す。 ・回遊観光を促進させるために、観光パーク・アンド・ライドシステムの導入を図る社会実験を行い、円滑な交通体系を構築する。		・道路事業（基幹事業） ・地域生活基盤整備（基幹事業／情報板） ・高質空間形成施設（基幹事業） ・観光パーク・アンド・ライド社会実験（提案事業） ・観光回遊バス（関連事業／予定／松山市） ・ハイグレードバス停景観整備（関連事業／予定／松山市） ・みち再生事業（関連事業／松山市）
整備方針3「観光文化等の交流施設の利用促進を図る」 ・地域資源である松山城や道後温泉、小説『坂の上の雲』ゆかりの資源、地域文化を案内発信することで、地域の魅力が増し、市内観光の滞在時間の増大を図る。		・地域生活基盤整備（基幹事業／案内サイン／広場／駐車場） ・歩行者等優先空間整備（提案事業） ・ファサード景観整備（提案事業） ・ロープウェー通りファサード景観整備（関連事業／中心市街地等商店街・商業集積活性化施設整備事業費補助事業／松山ロープウェー商店街振興組合・松山ロープウェー中央商店街振興組合／松山ロープウェー北商店街振興組合）
その他 ○事業終了後の継続的なまちづくり活動 本地区では、H15年度に「全国都市再生モデル調査」で、地域資源の活用策を若者の価値観と創造性を切り口に、若者を中心とした地域団体やNPOが調査・検討・検証実験を実施した。今後、継続的な市民参加のまちづくりを行うため、複数の市民団体やNPOの協働実施により、地域の魅力を高める景観形成や地域のまちづくり等を市民主体で行っていく「 （仮称）まちづくり市民交流組織 」の構築を平成16年度から平成17年度にかけて進めている。 ○道路等景観向上を図るための方策について 安全・快適、かつ、景観に配慮したまちづくりを促進し、地域や関係諸団体との合意形成を図るため、まちづくり協議会を設置しており、まちづくりにおける整備計画を策定予定である。 ○交付期間中の計画の管理について 交付期間中において、事業内容の理解を得る効果的な手段で、事業の進捗にあわせて継続的に、市民へ広報、啓発することにより、事業を円滑に進め、事業の実施効果を高めていく。また、適宜、事業の有効性等を客観的に評価し、事業の適正な運営に努めていく。		

交付対象事業費	7,000.0	交付限度額	2,800.0	国費率	0.40
---------	---------	-------	---------	-----	------

基幹事業	事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
							開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
	道路		市道道後39号線外	松山市	直		16	20	16	20	192.9		192.9		192.9
	公園		城山公園	松山市	直		16	22	16	20	6,223.2		1,050.2		1,050.2
	河川														0.0
	下水道														0.0
	駐車場有効利用システム		—			—									0.0
	地域生活基盤施設		—	松山市	直	—	16	20	16	20	523.9		523.9		523.9
	高質空間形成施設		—	松山市	直	—	16	20	16	20	1,985.8		1,985.8		1,985.8
	高次都市施設		—	松山市	直	—	16	18	16	18	1,307.8		1,307.8		1,307.8
	既存建造物活用事業		—			—									
	土地区画整理事業														
	市街地再開発事業														
	住宅街区整備事業														
	地区再開発事業														
	バリアフリー環境整備促進事業														
	優良建築物等整備事業														
	住宅市街地 総合整備 事業	拠点開発型													
		沿道等整備型													
		密集住宅市街地整備型													
		耐震改修促進型													
	街なみ環境整備事業														
	住宅地区改良事業等														
	都心共同住宅供給事業														
	公営住宅等整備														
	都市再生住宅等整備														
	防災街区整備事業														
	合計										10,233.6	0.0	5,060.6	0.0	5,060.6

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	〔参考〕事業期間		交付期間内事業期間		〔参考〕全体事業費	交付期間内事業費		交付対象事業費	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分		
地域創造支援事業	観光P&R社会実験	大街道外	松山市	直		16	18	16	18	92.1	92.1	92.1	92.1	
	歩行者等優先空間整備	道後温泉本館前外	松山市	直		16	16	16	16	7.0	7.0	7.0	7.0	
	道後温泉駅前街区・本館周辺ファサード景観整備	道後温泉本館前外	松山市	間		18	20	18	20	56.4	56.4	56.4	56.4	
	文化交流拠点整備(広場)	道後湯月町	松山市	直		16	18	16	18	174.2	174.2	174.2	174.2	
	文化交流拠点整備(施設)	道後湯の町	松山市・道後温泉旅館協同組合	間		18	20	18	20	46.4	46.4	46.4	7.0	46.4
	「坂の上の雲」記念館(仮称)建設	一番町	松山市	直		16	20	16	20	1,173.9	1,173.9	1,173.9		1,173.9
	ロープウェイ東雲口駅舎改築	大街道3丁目	松山市	直		16	17	16	17	148.6	148.6	148.6		148.6
	まちなか企業立地支援	一番町外		間		17	20	17	20	907.0	89.3	89.3		89.3
														0.0
事業活用調査		—			—								0.0	
		—			—								0.0	
まちづくり活動推進事業	「坂の上の雲」を軸とした21世紀のまちづくり事業	—	松山市	直	—	16	20	16	20	151.5	151.5	151.5		151.5
		—			—									0.0
合計										2,757.1	1,939.4	1,939.4	0.0	1,939.4
													合計(A+B)	7,000.0

(参考) 関連事業

[illegible]